

松村ボン事務所所長がルール大学病院長を訪問



2013年7月5日(金)に、ボン事務所所長である松村明教授(医学医療系)がドイツ・ルール大学ボーフム校ベルクマンスハイル病院を訪問しました。同病院は、1890年にドイツ最大の石炭・鉄鋼工業地帯であったルール地方における鉱業労働者のために設立され、現在は23の診療科、662の病床を有する大学病院です。

まず、本学の山海教授(サイバニクス研究コア)が身体機能の拡張・増幅・補助を目的として開発した「ロボットスーツ HAL」を利用したリハビリテーション実験の結果について、シルトハウアー病院長からご説明いただきました。

「HAL」を利用した歩行訓練には、事故等により足に障害がある患者が4ヶ月後に歩行器を使って歩くことができるようになるなど、高いリハビリテーション効果があることが報告されました。



「HAL」運動センター①



「HAL」運動センター②

次に、真新しい「HAL」を利用したリハビリテーション施設を見学しました。その後、シルトハウアー病院長自ら、2時間以上に渡り病院内を案内してくださいました。

今回の訪問では、筑波大学から生まれた研究成果が国外の医療現場において、ロボット医療機器として、実際に検証・実用化されていることを確認し、今後の発展を協議する、大変有意義なものとなりました。